

(1) 山梨リニューアル委員会  
(総括)

委員長 金澤 悟

山梨リニューアル委員会は、「リニア部会（部会長：志村浩男）」及び「富士山部会（部会長：原田由起彦）」の2部会により活動を展開してきた。

今年度山梨県においては『新総合計画』の策定が開始されたところであり、その中でも、リニア山梨ビジョン（仮称）の策定・推進や「富士山登山鉄道」構想の検討など、当委員会の活動と関連する施策も検討されている。山梨経済同友会では、この計画策定の検討会に入倉代表幹事が参画し、当委員会と連携して情報収集と意見提出を行っているところである。

こうした中、リニア部会では、昨年度から引き続きリニア新駅からの二次交通について検討を深め、この7月に新知事の長崎幸太郎氏と意見交換を行うとともに、「経済財政に関する山梨コンファレンス」に参画し、志村部会長による提言を行った。また、リニア新幹線開通後の交流人口が増える（大交流圏の実現）ことについて、山梨大学特任教授の佐藤文明氏の講演をいただき、異質な者同士の新たなつながりにより、より価値を創造する必要性について新たな知見を得た。

富士山部会では、訪日外国人が増え、また、県内への訪問客も増える中、インバウンドなど旅行企画会社の佐久間孝幸氏、遠藤仁氏により「山梨の観光の現状と将来の展望」について講演をいただき、今後更に訪問、滞在者を増やすために必要な課題等について理解を深めた。また、山梨県の『新総合計画』策定に関し、観光に関する意見書を提出した。

2部会の詳細な報告については、後述の各部会報告を参照のこと。

次年度は、引き続き『新総合計画』の策定に参画し、情報収集、意見提出など、県との協働を進めていく。これと併せて、リニア部会では、長野新幹線開通後の先進事例の研究、更なる二次交通の検討深化、及び開通後を見越した人的交流による価値創造について、ハード、ソフト両面について検討を進める。また、富士山部会では、インバウンド需要で、特に滞留型観光を増やすこと、及び富士山だけでなくオール山梨での連携による活性化について検討を進めていく。

以上

## ① リニア部会活動報告

部会長 志村 浩男  
副部会長 小澤健太郎

リニア開業まであと8年となったが、東は東京圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）の3,500万人、西は名古屋圏（愛知・岐阜・三重）の1,100万人と山梨県が短時間でつながる事により、直接人々が出会える機会が画期的に増える時代を迎える事になる。人口減少が続く山梨県において定住人口・交流人口を増加させ、地域活性化の起爆剤とすべく積極的に投資をする必要がある。このまま手をこまねいて何もしていないでいると、山梨県に停車する本数は90分に1本、120分に1本と本数を減らされていくであろう。将来の子孫にとってリニアが「誇れる施設」になるのか、単なる「迷惑施設」になるかは、今を生きる我々にかかっている。そのような強い危機意識を持ちながら、今年度も様々な活動・研究を実施した。

繰り返しになるが、平成28年9月にリニア部会で作成した意見書は、「リニア新駅」と身延線、中央線、富士急行線をLRTで繋ぐことにより、県内全体が「軌道系公共交通」で環状的に結ぶ内容になっている。本年1月には知事選挙が実施され、新知事として長崎幸太郎氏が就任したことを受けて、リニア部会としてあらためて意見書の説明に伺った。

また、関東財務局が主催する「経済財政に関する山梨コンファレンス」に初めて参加し、シンクタンクの研究員、大学教授、関東財務局と意見交換をする中で知見を深める事が出来た。

また、これまではハード面（LRT等）に関する研究に偏りがちであったが、それと同時進行で今年度はソフト面（ソーシャルキャピタル）の研究を進め、山梨大学佐藤特任教授からのご講演を頂いた。これまでとは全く別の切り口からのお話に新たな気づきや学びがあった。

### <活動報告について>

#### ◆経済財政に関する山梨コンファレンス

日時 令和元年5月21日（火）14:15～

場所 甲府合同庁舎2F

基調講演「リニア時代の国土における山梨県のポテンシャル」

講師：加藤義人氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）

報告1「リニア中央新幹線山梨県駅とのアクセス向上が地域に与える影響」

講師：武藤慎一氏（山梨大学准教授）

報告2「首都圏との時間短縮による新たな滞在型観光の可能性」

講師：田中 敦氏（山梨大学教授）

パネルディスカッション

コーディネーター：武藤慎一氏（山梨大学准教授）

パネリスト：加藤義人氏（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング）  
田中 敦氏（山梨大学教授）  
志村浩男部会長（山梨経済同友会）  
赤平吉仁氏（甲府財務事務所長）

◎山梨大学武藤准教授から推薦され初の参加となった。パネルディスカッションにおいて、志村部会長が山梨経済同友会の提言内容について披露し、多数の賛同を得られた。



(1.5.21 パネルディスカッションの様子)

◆リニューアル委員会講演会（全体委員会）

日時 令和元年7月11日（木）16：00～15：45

場所 甲府記念日ホテル 2F「桃源」

テーマ「大交流リニア都市圏と山梨」

～新たなつながり方とこれからのコミュニティ～

講師：佐藤文昭氏（山梨大学特任教授）

◎異質な者同士の新たなつながり（主張・共感）が新しい価値を生み出す。リニア新幹線の恩恵は時間・コストの短縮であり、大勢の人が交流できる可能性が格段に増すが、夫々の人にとってお互いに必要となることが大事である。どうすれば私たち一人ひとりが特定のだれかと絆をむすべるかを意識する必要があり、地域にとって真に価値ある交流にしていかなければならない。



(1.7.11 講演会の様子)

(講師)

◆長崎知事との意見交換会

日時 令和元年7月30日(火) 16:30~17:00

場所 山梨県庁第一応接室(本館3F)

長崎知事、三井リニア局長、望月リニア推進監

入倉代表、金澤委員長、志村部会長、小澤副部会長、事務局長

◎リニア部会の提言書について説明した。甲府と富士山を結ぶ事はコスト的に厳しいと思われるが検討するとの事。川崎重工のSWIMO(LRT)について興味を持たれ、いくつかご質問を頂いた。

<今後の取組みについて>

部会では、2027年のリニア開業に向けて、「甲府のまちづくりの方向性(2011.9)」、「山梨県の活性化策(2012.11)」、「公共交通の活用(2016.9)」をそれぞれ主題に適宜、提言書を取りまとめ発信してきた。

これからも、リニア駅をめぐる情勢の変化や個々の政策決定の節目節目において意見等を発信していく。さらには、これまでの知見を活かした活動として、二次交通の検討深化や、開通後を見越した人的交流による価値創造について、ハード・ソフト両面について検討を進めていきたい。また、本年度は先進事例研究として、長野新幹線開通により佐久市(郊外・新設型駅)の人口増加(開通前1995年64,206人、開通後2019年98,867人)に着目して、その取組みについて勉強し県への提言につなげたい。

以上

## ②富士山部会活動報告

部会長 原田由起彦  
副部会長 渡邊 良孝

2018年の訪日外国人数は前年比で8.7%増の3,119万人と大きく数字を伸ばした。特に従来の中国、韓国、台湾の伸びもさることながら米国、豪州などからの訪日外国人が前年比2桁の伸びと言うのも特徴的である。

本県においても2018年度は県内の年間観光入込客数は3,216万8千人と前年比17.2%増でこの内外国人観光客を含む県外客は前年比9.4%増の2,708万8千人を記録した。

このような状況の中、今年度富士山部会では大手旅行会社でインバウンドの旅行企画を行っている(株)KNT-CT グローバルトラベル訪日FIT支店の佐久間氏と山梨での勤務経験も長く本県の事情に精通されている本会会員の(株)近畿日本ツーリスト関東の遠藤仁甲府支店長のお二人に『山梨の観光の現状と将来の展望』と題して山梨の観光の現状、また今後取組むべき方向性などを講演いただいた。

講演の内容等については以下通りである。

### ◆『山梨の観光の現状と将来の展望』（全体委員会）

日時 平成31年2月28日(木) 午後1時30分より

会場 甲府富士屋ホテル 2F「桃源」

講師 佐久間孝幸氏（(株)KNT-CT グローバルトラベル訪日FIT支店課長）  
遠藤 仁氏 （(株)近畿日本ツーリスト関東 甲府支店長）

#### ○講演内容

- 1、2018年の訪日外国人数(日本政府観光局)～3111万1900人(前年比+8.7%)  
\*中、韓、台の伸び率も高いが他のアジアの国々来日客の増加が顕著。  
また米国、豪州も前年比2桁の伸び率となっている。

- 2、政府目標(2030年訪日外国人旅行者6,000万人)達成に向けての施策

- ①国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成
- ②観光産業の国際競争力の強化と人材育成
- ③通信環境の整備、観光情報の充実及び多言語化の推進
- ④観光旅行の促進のための整備（災害時の訪日客への対応など）

#### 【訪日外国人の関心と満足度から見る山梨観光の将来を展望する】

- 3、訪日旅行における関心について

・訪日旅行に期待するもの……

日本食、景勝地観光、ショッピング、温泉、文化体験など



- ・旅行情報の収集に役立ったもの……ブログ、SNS、口コミサイト、HP など
- ・日本の受入環境について……コミュニケーション、無線 LAN 環境充実、多言語表示

#### 4、山梨のインバウンド事業展開について

##### (1) 山梨県のインバウンド需要の現状

富士山観光をフックに山梨のインバウンド需要は訪問率や訪問数・宿泊者数は全国的に見ても 12 番目と非常に高いが消費金額(全国 46 番目)、平均宿泊日数 1.8 泊など他県と比較して極端に低い。

##### (2) 富士山観光だけでなく他の地域と連携・ネットワークによる活性化。

- ①訪日客のニーズの高い日本食、景勝地観光、温泉、文化体験など山梨の魅力ネットワークで提案、情報発信を強化。
- ②県内を自由に動くことが出来る交通網の整備。
- ③連泊方観光を意識したナイトスポットの充実。



(講演会の様子)



(講師)

#### ◆今後の活動について

日韓の対立により、韓国人訪日客の全国各地観光地への悪影響が懸念されている(8月現在では半減)。韓国からの団体旅行のキャンセルに加え個人旅行でも訪日を見送る動きが表面化し、低迷は今後も続く恐れが強い。

しかしながら、山梨には、訪日旅行における訪日客の関心(日本食、景勝地観光、ショッピング、温泉、文化体験など)の満足度を高め、リピート率を高める要素や条件を殆ど有している。

山梨への高いインバウンド需要に応える形で滞留型の観光への取組みと、富士山観光だけでなく他の地域と連携・ネットワークによる活性化への取組みを目指すためにはどうすればよいか、今後、連携を図り、講演会など企画する中で具体的な議論をしていきたい。

以上